

地域産業クラスターの形成に向けた一次産業物流最適化モデル

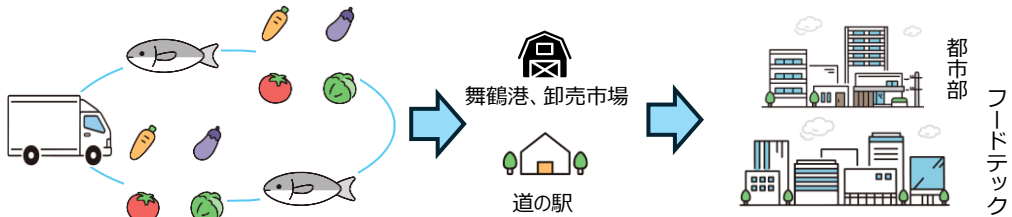
協議会名: 持続可能な京都府北部地域物流ネットワーク推進協議会

協議会構成員: 京都府、ヤマト運輸株式会社
Sustainable Shared Transport株式会社
その他複数物流事業者、荷主企業で構成

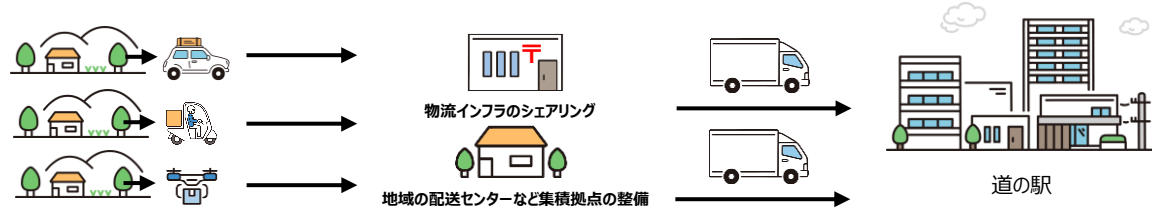
- 【事業実施背景】
- ・一次産業の主要生産地である府北部において、人口減少・高齢化により農産物・水産物の物流環境が特に厳しい状況
 - ・生産箇所の点在・分散や輸配送ルート・手法の複雑化により、人手不足や物流コスト高騰が物流環境の悪化に直結

事業内容

- Point
- 府北部地域の農水産物の物流最適化検討調査
- 農業・水産業における物流の実態の整理、課題の可視化
 - 複数の輸送手法を組み合わせた物流の費用対効果・実現性の検証と、荷主・物流事業者双方に有益な最適化プランの提示



- Point
- へき地等を発着点とする農水産物等輸配送の効率化実現可能性調査
- へき地における物流効率化の手法・拠点整備等の具体化
 - 地域実証に向けた課題抽出や解決手法の検討



想定事業実施効果

- ※実現可能性調査対象範囲において以下のKPIを設定
- ・対象ルートの積載率を10%以上改善
 - ・対象荷主群の輸配送コスト(円/kg または 円/箱)を【▲5~15%】改善
 - ・へき地の輸配送水準(週あたり便数/リードタイム(注文~受取))を現状維持以上で確保
 - ・CO2排出量10%以上減

共同輸配送やミルクラン※により輸送効率を高め、収益性を確保した持続可能な物流体制の構築
生産拡大や担い手確保に対応し、地域経済を支えるとともに、へき地の出荷体制確保とCO2排出量の削減

※発注側（メーカーなど）が手配したトラック1台で複数の納入先（サプライヤー）を順番に回り、部品や原材料をまとめて集荷して持ち帰る配送方式